

ならず、萬無作法ばんむさぽうに候へば、小百姓に

公儀御用の事申付候てもあなとり、用もちひ  
 さるものに候間、身持もちをよく致いたし、不弁ふべん  
 仕らさるやうに常々つねづね心がけ申へき事

一名主心持、我われと中悪なかあしき者ものなりとも、無理むり

なる義を申かけず、又中よき者なりとも、依怙えこ

鼻ひ肩かたなく、小百姓を懇ねんごろにいたし、年貢割わり

役等やくとうのわり、少すこしも高下かうげなく、ろくに申渡すへし、

扱あつか又小百姓八名主・組頭乃申付る事、違背ゐはいなく

念を入申べき事

一耕作かうさくに精せいを入、田畑たはたの植様うゑやう、同く拵こしらへやうに

念をいれ、草くさはえざるやうに仕るべし、草を

能くとり、節々せつせつ作つくり乃間へ鋤入くはいれを仕候へハ、作毛

よく出来取実できとりも多おほくこれあるに付、田畑乃